

## 公益社団法人日本化学会 平成25年度事業計画書

### 事業名および事業概要

#### ■定時社員総会

[共通]

平成25年5月23日(木) 日本化学会で開催予定。主な議案としては、①平成24年度事業報告、②平成24年度決算（貸借対照表、損益計算書、及び財産目録）承認の件、③理事、監事選任の件、④定款変更の件、の予定。

#### 【役員会等】

#### ■理事会

[共通]

本会の意思決定機関として、本会事業活動を担っている各部門・委員会等の事業の活動状況の報告をうけ、定款によって定められた審議事項ならびに各委員会・支部・部会を含めた会全体の運営に係わる事項について審議・決定する。また、代表理事・業務執行理事の職務を監督する。平成25年度は5回開催予定。

#### ■顧問会

[共通]

本会の会長経験者をもって組織し、本会運営上の重要課題について大所高所から意見を伺う場として、平成25年度は1回開催予定。

#### ■相談役会

[共通]

本会運営上の重要課題について産業界の立場から意見を伺う場として、本会の法人正会員首脳約20名で組織されていた相談役会については、産業界との連携を密にし、新たな枠組みを検討して、進めることとする。

#### ■支部長・部会長会

[共通]

本会の7支部、および5部会の事業計画・活動状況について情報交換するとともに、本部としての運営に係わる重要方針を伝達する場として、平成25年度は3回開催予定。

#### 【運営会議関係】

#### ■運営会議

[共通]

会長、筆頭副会長、副会長、常務理事、および会長指名の者により構成し、理事会の予備的審議機関として、本会運営上の短・中・長期的重要事項、会全体としての事業・予算上の重要事項、広報すべき事項、会長提案事項等について審議する。平成25年度は4回開催予定。

#### ■戦略企画委員会

[共通]

会長、筆頭副会長、常務理事、次期会長最終候補者、および会長指名の者で構成し、本会の活動、事業および経営に関する基本戦略の策定、推進および管理を行うとともに、本会全体に影響を及ぼす重要課題についての戦略策定を行い、理事会に提案・報告する。平成25年度は4回の定期会議のほか、臨機応変に開催予定。

#### ■東日本大震災被災者支援委員会

[公益2]

本会より拠出した1,400万円及び会員からの寄附金並びに内外からの寄附金を原資として、化学を中心とするサイエンスコミュニティ及び次世代を担う小・中・高校生を対象とした東日本大震災被災者支援事業を行う。委員会はメール審議を中心とし、必要に応じて委員会を開催して具体的な実施事業を決定する。平成25年度は、委員会発足から2年が経過するため、今後の支援のあり方について議論、決定する。

#### ■広報委員会

[共通]

本会の事業活動を内外に積極的に広報するとともに、広く社会に対し化学に関する知識の普及および情報の提供に努めることを主たる目的として、①記者会見、ニュースリリースの速やかな実施、本会役員とメディアとの交流拡大を図ることを目的として、②記者懇談会を年3回実施する。また、平成24年度より引き続き化学会ホームページリニューアル第2フェーズを構築する。

#### ■倫理委員会

[共通]

本会会員が『日本化学会会員行動規範および行動の指針』に則した真摯な活動を通じ、本会が社会の信頼と期待を付託された化学研究者・技術者の専門家集団として一層発展するよう支援することを目的とする。委員会は必要に応じて開催する。

■論説委員会 [共通]

学会としてより社会にむけて積極的に発言するため、化学、化学技術関連の時事テーマを随時とりあげ、それに対する見解を機関誌、HPなどに「論説」として掲載し、またその論説に対する読者からの意見をも掲載して問題に対する会員および一般社会の理解を深めることをめざす。論説委員10名とゲスト論説委員が、「化学と工業」誌に順次執筆し記事を掲載。平成25年度は2回開催予定。

【会務部門】

■会務部門会議 [共通]

役員選考制度や賞選考制度など会務運営に関わる重要課題および委員会の枠を越えた課題等について必要に応じて会議を開催し、結果を理事会に報告・提案する。平成25年度は、新公益法人の運営を円滑に実施するための諸施策、会員増強のための諸施策、フェロー制度のあり方などを中心に議論する。平成25年度は適宜開催予定。

■会員委員会 [共通]

会員維持・増強に向け、費用対効果を考慮しながら、制度改革や会員サービスの改善を図る。会員増強については、関連部門・支部・委員会と協力しながら取り進める。平成25年度は4回開催予定。

■役員候補者選考委員会 [共通]

各支部、ディビジョンおよび理事会から推薦された次年度の副会長、理事、監事候補者について、各支部所属代議員から選出された役員候補者選考委員により選考することを任務とし、平成25年度は1回開催予定。また、平成25年度は、平成26・27年度会長候補者の会員投票をウェブで実施予定。

■学会賞選考委員会 [公益1]

各支部、部会及びディビジョンより推薦された日本化学会賞の受賞候補者(6件以内)の選考を任務とし、平成25年度は2回開催予定。

■学術賞・進歩賞選考委員会 [公益1]

各支部、部会及びディビジョンより推薦された学術賞(12件以内)、進歩賞(10件以内)の受賞候補者の選考を任務とし、平成25年度は2回開催予定。分野別選考委員会は1回(郵便投票)開催予定。

■化学技術賞等選考委員会 [公益1]

各支部、産学交流委員会、関係機関、部会及びディビジョンなどより推薦された化学技術賞(5件以内)、技術進歩賞(3件以内)、化学技術有功賞(若干数)の受賞候補者の選考を任務とし、平成25年度は郵便による審議1回と委員会1回開催予定。

■化学教育賞等選考委員会 [公益1]

各支部、教育・普及部門、部会及びディビジョンなどより推薦された化学教育賞(3件以内)、化学教育有功賞(5件以内)の受賞候補者の選考を任務とし、平成25年度は1回開催予定。

■女性化学者奨励賞選考委員会 [公益1]

各支部、部会、ディビジョン及び男女共同参画委員会より推薦された女性化学者奨励賞(2件以内)の受賞候補者の選考を任務とし、平成25年度は委員会1回開催予定。

【研究交流部門】

■研究交流部門会議 [共通]

学術集会や研究交流に関わる重要課題および委員会の枠を越えた課題について必要に応じて会議を開催し、結果を理事会に報告・提案する。

■学術研究活性化委員会 [公益1]

化学研究のさらなる活性化を目指し、①春季年会活性化策の検討、②部会活動・ディ

ビジョン活動の活性化策の検討、③アジア国際シンポジウムの企画・実施、④部会・研究会・新領域研究グループ等の事業評価、⑤CS3の実行案策定、⑥融合領域を対象とする第二次先端ウォッチング調査および報告書の作成、⑦21ディビジョンの活動状況の管理を行う。平成25年度は3回の委員会開催を予定。

■ディビジョン運営委員会 [公益1]

会員相互の学術的・技術的知識の増進を図るため、化学関連分野ごとに設置された21ディビジョンの活動方針を討議する。平成25年度は3回の委員会を開催予定。

■国際交流委員会 [公益1]

第93春季年会において①日中若手フォーラム(3月24日)、②日英シンポジウム2013(3月24日)および③日加交流触媒シンポジウム(3月23日)を開催する。FACS(アジア化学会連合)に関しては、2017年の日本招致に向けた活動、2013年シンガポール大会で日本の存在感向上を図る活動に注力する。CS3は9月に日本でホスト国として開催予定。IUPAC(国際純正・応用化学連合)等も積極的に関与する。命名法、原子量表、単位・記号の各専門委員会もIUPACでの決定事項を受け、本の翻訳や冊子の刊行等を行なう。

■2015環太平洋国際化学会議(PACIFICHEM 2015)実行委員会 [公益1]

2015年開催に向けシンポジウム企画とりまとめなど準備を進める。また、6月の組織委員会を日本にて開催する。

■IUPAC賛助委員会委員会 [公益1]

巽 和行教授(名大)の会長就任に伴い、本会も会長国としてより一層の積極的関与が見込まれている。IUPAC賛助会員の会費管理ならびに賛助会員に関わる活動のほか、会長国として機運を盛り上げていく。

■第93春季年会実行委員会 [公益1]

平成25年3月22日(金)~25日(月)に立命館大学びわこ・くさつキャンパスにて開催予定。実行委員会のもとに、プログラム、講演企画、産学連携、総務・会場の小委員会を組織し、準備を進める。

■第94春季年会実行委員会 [公益1]

平成26年3月27日(木)~30日(日)に名古屋大学東山キャンパスにて開催予定。実行委員会のもとに、プログラム、講演企画、産学連携、総務・会場の小委員会を組織し実施運営に向け、各々数回の委員会を開き準備を進める。

■男女共同参画推進委員会 [公益1]

性別に関わり無くその個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会を、他の学協会との連携のもと実現させることを任務とする。学協会連絡会シンポジウム、女子中高校生夏の学校、女子中高校生ジュニア科学塾への参加を予定。委員会は3回開催予定。

■化学遺産委員会 [公益2]

化学に関する学術と教育の向上及び化学産業の発展に資することを目的に、①化学関連の歴史的に重要な資料等の調査・収集・整理・保管(保管場所の移管等、全体の仕組みを検討する)、②オーラル・ヒストリー事業、③会員及び一般市民を対象とする化学・化学技術史に関する普及・啓発事業、④化学遺産認定事業を重点的に行う。委員会は3回開催予定。なお、第93春季年会会期中に化学遺産市民公開講座を開催予定。

■環境・安全推進委員会 [公益1]

環境・安全に関する事項の審議と事業の推進を任務とし、化学安全スクーリング、環境教育講演会や刊行物の企画等を行ない、環境・安全にかかわる人材・管理者の育成を図る。平成25年度は2回開催予定。なお、本年度は日本学術会議主催“第26回環境工学連合講演会”を担当学会として4月に開催予定。

【学術情報部門】

■学術情報部門会議 [共通]

学術情報部門に属する各委員会の枠を越えた課題について協議する。特に、論文誌事業の将来を見据えた事業戦略を議論する予定。平成25年度は2回開催予定。

■化工誌編集委員会 [公益1]

本会機関誌として、化学および関連分野の情報を豊富に掲載し、会員にとって興味ある、また役立つ「化工誌」を目指す。編集委員会は2回、編集幹事会、広告委員会は12回開催予定。発行は、月1回、年12冊。総頁数1,300頁、総発行部数324,000部予定。

■欧文誌編集委員会

[公益1]

「欧文誌 (Bulletin of the Chemical Society of Japan)」編集委員会は1回、幹事会12回開催予定。月1回、年12冊170論文発行。総頁数1,300頁(論文のみ)、総発行部数21,600部予定。

■速報誌編集委員会

[公益1]

「速報誌 (Chemistry Letters)」編集委員会は2回開催予定。月1回、年12冊500論文発行。総頁数1,400頁(論文のみ)、総発行部数25,700部予定。

■The Chemical Record(TCR)、Chemistry An Asian Journal (CAJ)

[公益1]

両誌ともに出版元であるWiley-VCHと連携して編集強化に取り組む。TCRは年会中に編集委員会を1回開催予定、CAJは年に1回編集会議に委員が出席予定。

■刊行物

[公益1]

化学便覧応用化学編(改訂第7版)、CSJカレントレビューシリーズの編集刊行を行う予定。また、既刊行物の宣伝、新規刊行タイトルの開拓も適宜行う。

■国際情報発信力強化(欧文誌・速報誌)

[公益1]

科研費をベースとしたジャーナル戦略を推進するために、①編集・出版体制の強化と国際化、②グローバルな著者マーケティング活動の展開、③効果的な情報発信と利用者数の増大に取り組む。

【産学連携部門】

■産学連携部門会議

[共通]

産官学の交流・連携に関わる重要課題について必要に応じて会議を開催し、結果を理事会に報告・提案する。

■産学交流委員会

[公益1]

本会の産官学の交流・連携を目的とし、年会の活性化や本会の運営に産業界からの立場で活発に諸提言を行うことを任務とする。産学/産産連携活動と、産業界が期待する活動を積極的に推進するために、平成25年度は春季年会ATP、優秀講演賞(産業)の審査選考、R&D懇話会、化学技術基礎講座、技術開発フォーラム、博士セミナーなどの事業を実施する。また、JABEE活動にも適宜対応してゆく。平成25年度は3回開催予定。

■化学フェスタ実行委員会

[公益1]

秋季事業として、第3回CSJ化学フェスタ2013を平成25年10月20日(日)～10月23日(水)にタワーホール船堀にて開催予定。過去2回の結果を反映して、企画・実施する。又、秋季事業の安定運営のための戦略策定を行う。

■教育・普及部門

教育・普及に関わる重要課題について会議を開催し、結果を理事会に報告・提案する。①学校教育の充実、②化学の普及、③会誌「化学と教育」の更なる充実を活動の3本柱として、各支部教育・普及および関係諸団体と連携して活動を行ってゆく。平成25年度は5回(支部代表を交えた拡大会議2回を含む)開催予定。

■学校教育委員会

[公益2]

化学教育の振興を任務とし、傘下に①化学教育カリキュラム構築小委員会、②大学入試問題検討小委員会、③マイクロスケール化学実験小委員会を設置して活動を行う。平成25年度は委員会1回開催予定。

■普及・交流委員会

[公益2]

化学の普及活動を任務とし、傘下に①化学だいすきクラブ小委員会(年3回の冊子発行・配布、夏のイベント)、②国際関係小委員会、③実験体験小委員会、④クイズショー小委員会、⑤化学教育フォーラム企画小委員会を設置して活動を行う。平成25年度は委員会4回開催予定。

■化教誌編集委員会

[公益2]

化学全般の解説記事及び化学の教育現場に有用な記事・論文を掲載し、会員の助けとなる会誌を目指す。編集委員会 年3回、編集幹事会 年5回、小委員会 適宜開催予定。発行は、月1回、年12冊。総頁数 約700頁、総発行部数 47,000部予定。

■化学グランプリ・オリンピック委員会

[公益2]

化学の普及を目的に高校生以下の生徒を対象とした「化学グランプリ」を実施する。また、「化学グランプリ」等から選抜された生徒に強化・訓練を施して、国際化学オリンピックへ代表生徒を派遣する。平成25年度は3回の委員会を開催予定。

■支部事業

[公益1、公益2]

北海道、東北、関東、東海、近畿、中国四国、九州の7支部において、地区大会のほか、化学教育・普及事業や各種講演会、講習会、研究発表会、支部長賞などの表彰事業などを行う。

■部会事業

[公益1]

化学における特定分野（コロイドおよび界面化学、情報化学、生体機能関連化学、バイオテクノロジー、有機結晶）を専門的に取り扱い、それぞれの分野において専門的なトピックに特化したシンポジウム・講習会・討論会の運営、会員向け機関誌の発行などの活動を予定。

■化学情報センター

[公益1]

化学会発行物、IUPAC関連資料、共催・協賛の要旨集、国際会議、化学史関連資料の収集・保管を中心に、刊行物のwebサイトでのお知らせ、文献複写依頼対応、センター訪問者の対応も行う。

【収益事業】

■事務室賃貸

テナント5団体〔(社)有機合成化学協会、(社)日本雪氷学会、(社)情報処理学会、触媒学会、英国王立化学会〕への事務室の賃貸を継続する。

以上